

実践③ 龍郷町立秋名小学校

1 はじめに

本校は、平成 29 年度末時点の児童数 10 名の変則複式学級及び単式学級から、平成 30 年度末には 19 名に増え、完全複式学級となった。現在 22 名まで増加し、今後数年は 20 名前後を維持する見通しである。

読書活動は、以前から学校を含む PTA・老人クラブ・婦人会・青壮年団・子供会などが連携した読書活動がさかんに行われていた。平成 24 年度に、小規模校として課題となっていた児童の表現力やコミュニケーション力向上の一環として、これまで地域ぐるみで行っていた読書活動を学校の教育課程に取り入れ、「音読オリエンテーリング」を中心としながら学習と行事等を関連付けた言語活動として編成した。

2 活動の実際

(1) 読書年間目標冊数の設定

本校では、低学年 150 冊、中学年 100 冊、高学年 90 冊以上を設定している。令和元年度は、低学年と中学年が目標冊数を達成した。高学年では、目標冊数を超える児童と 70 冊程度の児童がおり、児童によって差が見られた。

(2) 音読オリエンテーリング

名文・名句に親しみ、図書への興味を高め、暗唱の達成感により自信を深めさせ、地域住民へ発表する場を設定することで、コミュニケーション能力はもちろん、地域とのつながりをより強固なものにしていくことも目的として実施している。

(3) 音読発表

毎月第 4 水曜日の朝活動の時間に全校児童が体育館に集まり、国語科等で学習した内容を発表したり、音読オリエンテーリングで覚えた名文（「寿限無」や「枕草子」など）・名句（「わたしと小鳥とすずと」、奄美のことわざなど）を暗唱したりしている。

また、これに向けて音読ファイルを活用した家庭学習との連携を図っている。

(4) 表現タイム

毎日の音読で練習している朗読や詩の暗唱などを、音読の視点に気を付けながら各学級で毎週水曜日の朝に友達に披露したり音読発表会の練習をしたりしている。

(5) 給食時間の音読放送

毎日給食時間の後半に、学年毎に国語の教科書にある物語や詩を音読したり、自分の作文や感想文を発表したりしている。また、ふれあい給食の際には、地域の方の前でも音読を披露し、おじいさん・おばあさん方にも喜んで頂いた。

(6) 親子読書会

家庭教育学級担当者や読書指導担当者が連携し、年 2 回行った。1 回目は、5 月の日曜参観に総務研修部の保護者が、「タムタムおばけとジムジムおばけ」の紙芝居の読み聞かせを行った。親子読書の時間では、低学年の保護者から子供へ読み聞かせ、中学年の子供は保護者に 1 冊の本を読む活動に取り組んでいる。高学年においては子供のおすすめの本を保護者に読んでもらい、お互いに本の感想を伝え合う活動を行っている。

どの活動も、保護者と子供たちが一緒に読書を親しむことができ、子供たちからも「この本を読んでもらおう」と本を借りて帰る子が増えている。2 回目は、2 月の学習発表会で、保健体育部の保護者が読み聞かせやパネルシアターの実演をする予定である。



〔親子読書の様子〕



〔保護者による読み聞かせの様子〕

(7) 学校図書館開き・子ども読書の日

学校図書館開きと子ども読書の日を4月に行っている。学校図書館開きでは、図書館の使い方や巡回図書館の借り方、司書の先生や図書委員会の紹介、どの棚にどんなお話があるのかななどを簡単に説明し、1年生はこの日から実際に本を借り始めている。

(8) 校内読書旬間

校内読書旬間を6月と10月に一週間ずつ設定し、教師や図書委員会による読み聞かせや、読書郵便はがきコンクール、読書ビンゴクイズなどを行っている。

教師による読み聞かせでは、司書を始め、校長や教頭による読み聞かせを行った。校長先生や先生方のおすすめの本紹介や大型絵本の読み聞かせを行うことで、「先生のおすすめの本読んだよ。〇〇がおもしろかった」など、教師に本の感想を伝える子供も増えた。

6月の読書郵便の取組では、2年生から6年生に本を読んだ感想や印象に残ったイラストをはがきに書いてもらい、1年生に読書郵便はがきの書き方を紹介した。また、図書委員会の児童が読書クイズ、読書クイズビンゴを行った。

10月は、全校児童で読書郵便に取り組み、もらったうれしいと思うはがきや紹介された本を読んでみたいと思えたはがきに投票する、「読書郵便はがきコンクール」を行った。各学年の1位の作品は、イラストや文章を工夫し、みんなが読んでみたいと思える読書郵便はがきであった。

また、町や地区の読書感想文コンクールで入賞した作品を子供たちが朗読発表する機会を設けている。



〔教師による読み聞かせの様子〕



〔読書郵便はがきコンクール作品の掲示〕

3 おわりに

平成24年度から始まった「音読オリエンテーリング」を継続して行うことで、子供たちの表現力やコミュニケーションの向上が見られるようになってきている。高学年を中心に、暗記した名文・名句をきっかけとし、劇のシナリオを作って学習発表会で発表したり、龍郷町の町民フェアで披露したりしてきた。

また、平成30年度・令和元年度には、龍郷町読書活動奨励賞を受賞し、多くの町民の前で全児童による群読や個人での詩の暗唱等を披露した。

小規模校での小さなコミュニティの中から地域などの大きな場での発表を体験することで、表現することに慣れ、自信をもつことができるようになってきている。その結果、課題であった学習意欲や発表意欲も改善されてきている。これからも、音読活動や読書活動を実践し、児童の表現力やコミュニケーションの向上、読書意欲を高めていけるように努めていきたい。



〔笑顔あふれる図書委員会メンバー〕